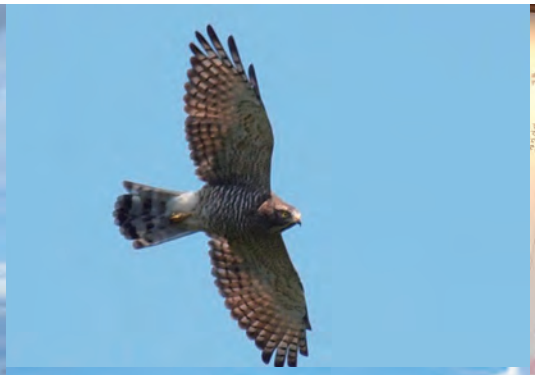
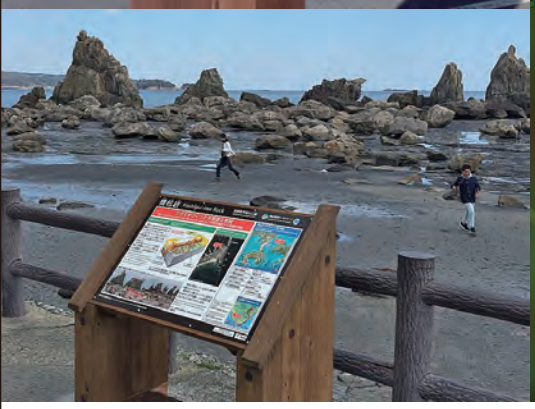
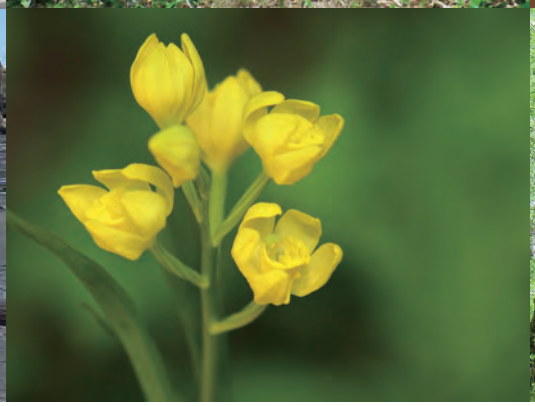
環境省実績集

Vol.2







株式会社アボック社
http://www.aboc.co.jp/

目次

1. はじめに

2. 釧路湿原国立公園 塘路湖 / 阿寒国立公園 摩周湖西別岳

3. 大雪山国立公園 層雲峡園地

4. 三陸復興国立公園 種差園地

5. 十和田鳥獣保護区 蔦野鳥の森

6. 三陸復興国立公園 震災メモリアルパーク中の浜

7. 三陸復興国立公園 宮古姉ヶ崎キャンプ場

8. 富士箱根伊豆国立公園 伊豆下田 弓ヶ浜

9. 皇居外苑 和田倉休憩所

10. 中部山岳国立公園 上高地

11. 吉野熊野国立公園熊野地域 南紀熊野ジオパーク

はじめに

日本の国立公園は2014年に80周年を迎え、自然風景地の保護と利用、そして生物多様性の保護という側面から今後はますます成熟していき、多様な層の利用者が訪れることと思われます。迷わずに行動できる案内、誘導系標識はもちろん、地域独自の文化や自然を学ぶことができる解説標識の充実が求められてくると思われます。

それは日本人ばかりではなく、外国人による利用も同じです。2013年には観光で日本を訪れる外国人旅行者の数が初めて1000万人を超え、東京オリンピックが開催される2020年には2000万人超えが目標とされているようです。このうちの約20%が国立公園を利用していると推計されており、多国語表記への対応も大事なテーマとなります。

ある記事を読んでいたら、いち早く多国語表記の標識を整備した富士山に対して外国人からの評価は高かったものの、「文化や自然の解説が少ないのが残念」という声もあったそうです。

こうしたことからますます「誰にでも分かりやすい総合的な標識」が必要となってきます。アボック社では新カタログ『Aboc サイン総合カタログ5』においてサインに対する考え方をお客様と少しでも共有できるように、サインガイドラインを掲載いたしました。文字の大きさや色彩に対する基準などを掲載していますので、是非ご覧ください。

また、2014年の御嶽山の噴火にみられるように自然災害のリスクと常に隣り合わせているのも国立公園の現実です。大自然の中に入っていく時には各自の自己責任のもとに備えを持って入っていくという当然の前提がある一方で、「標識を含む防災／減災のシステム」があるに越したことはありません。これに対しては、まだ手探りの段階ですが「防災標識総合カタログ」から小さな一歩を踏み出しました。今後、ケーススタディを重ねてより発展させていく所存です。

最後にもう1つ、良い標識の条件をあげるとすれば、「メンテナンス面のよさ」が挙げられると思います。長持ちする材質、消耗したときに交換ができる構造というハード面に加え、点検による部分的な改修などのアフターメンテナンスの充実。

点検に関してはＪＰＦＡ（日本公園施設業協会）の安全管理士有資格者による点検体制を整えていますので、小さなことでもご相談いただければ、と思います。

釧路湿原国立公園

塘路湖

北海道東部の標茶町に位置し釧路湿原国立公園の特別地域で鳥獣保護区でもあり、冬季はワカサギ釣りでも盛んな所です。

案内標識をはじめ、この地の歴史や野鳥などの解説標識 20 基近くを納品させていただきました。本体デザインの検討では周囲の景観を妨げないように表示板を斜型タイプにし高さを低めに設定しました。また、車イス利用者と健常者の両者が見やすいように、車椅子利用者の目線を中央に、健常者の目線を表示板上部に設定し角度を検討しました。

案内標識

表示板サイズ：W1185×H885
表示方法：ハイブリッドカラー
本体素材：北海道産松材

解説標識（塘路湖と縄文時代の人々の暮らし）

表示板サイズ：W585×H585
表示方法：ハイブリッドカラー
本体素材：北海道産松材

阿寒国立公園

摩周湖西別岳

北海道東部に位置し、観光名所である摩周第一展望台脇に登山口があります。その登山口にある総合案内標識をはじめ誘導標識などを納品させていただきました。表示印刷仕様は高耐候性やイタズラに強い電子線硬化樹脂コートのハイブリッドカラーです。

記名標識

表示板サイズ：W1200×H300
表示方法：彫刻文字
本体素材：トド松

登山口案内標識＋登山届箱

表示板サイズ：W1189×H841、W594×H560
表示方法：ハイブリッドカラー
本体素材：トド松

休憩施設案内標識

表示板サイズ：W900×H500
表示方法：ハイブリッドカラー
本体素材：トド松･集成材

誘導標識

表示板サイズ：W1200×H230
表示方法：彫刻文字
本体素材：トド松

大雪山国立公園

層雲峡園地

大雪山は日本最大の国立公園で、高山植物や日本の滝百選にも選ばれている名瀑などみどころが沢山あり、登山家であれば一度は歩きたい山です。

その大雪山黒岳山麓にある、北海道有数の規模を誇る層雲峡温泉街の標識改修に携わらせていただきました。

改修内容は、表示板の変更と本体の再塗装及び一部サインの新設がありました。

アジア系の観光客も多いことから、多言語表記として６か国語（日、英、繁、簡、韓、タイ）となりましたが、６か国語ともなると案内図部分が煩雑になるため地図上はピクトグラムと日本語、英語の２か国語にして凡例スペースを６か国語表記にした事により非常にシンプルで見やすい標識になりました。

印刷仕様については耐久性とランニングコスト並びにイニシャルコストの検討によりスーパーカラー R+ABX コート（特殊セラミックコート）を承認していただきました。

また、冬期間は「層雲峡氷瀑まつり」の開催場所が分かるようにマグネットシートを貼付するため表示基盤を SUS430 にしました。

秋口の発注で積雪前に仕上げなければならないというスケジュールの中、極寒期では塗装の密着、表示板接着の低下があるため担当監督員様と協議しながら進めさせていただきました。今後の課題として極寒地での冬期中の表示板貼付方法の技術向上を考案しなければならないと思いました。

改修前

改修後

表示板サイズ：W1645×H985、W985×H985
表示方法：スーパーカラー R+ABX コート
本体素材：ステンレス（既設再塗装）

SUS430 貼り、本体の再塗装、表示板の更新

表示板貼付完成

表示板サイズ：W1445×H985
表示方法：スーパーカラー R+ABX コート
本体素材：木製（既設再塗装）

マグネットシート

三陸復興国立公園

種差園地

平成 25 年 5 月 24 日に三陸復興国立公園に指定された種差園地の標識です。

施設名称板標識は本体にリサイクルウッドを使用しました。文字は白塗装をしたステンレス切り文字で周囲の景観になじむように配慮したものです。

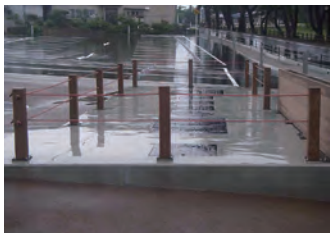
「本日は閉館しました」の標識はステンレス本体の底の部分を 12mmの厚さにすることで重量を増やし風対策としましたが、キャスターを付けることにより持ち運びにも問題はありません。

施設名称標識

表示板サイズ：W4000×H700
表示方法：ステンレス切文字
本体素材：再生木材

駐車場標識

表示板サイズ：W4000×H700
表示方法：ステンレス切文字
本体素材：再生木材



ロープ柵

本体サイズ：□100 H679
本体素材：再生木材

総合案内標識

表示板サイズ：W1500×H700
表示方法：ハイブリッドカラー
本体素材：ステンレス（焼付塗装）

利用時間おしらせ標識

表示板サイズ：W400×H670×D12
表示方法：カッティングシート
本体素材：ステンレス（焼付塗装）

十和田鳥獣保護区

蔦野鳥の森

蔦野鳥の森は、十和田八幡平国立公園　八甲田南麓にある蔦温泉から蔦沼をはじめとする６つの沼をめぐる自然歩道を有する園地になります。園地内では様々な野鳥や植物、水生生物を観察することができ、特に紅葉の時期には景色を楽しみながら６つの沼をめぐる”蔦沼めぐり”に沢山の人が訪れます。総合案内標識と解説標識は、十和田鳥獣保護区の標識が更新される際に、既設の腐朽した標識をリニューアルする形で整備されました。

既設の案内標識とリニューアルした案内標識
柱が腐朽し、基板がボルトのゆるみと積雪により傾いていたため、基板上部と下部に太めの横桟を渡すことにより強度をつけています

表示板サイズ：W1800×H900
表示方法：スーパーカラー R＋ABX コート
本体素材：青森県産ヒバ材

自然歩道は、５月の連休頃までは積雪があり、解説標識は雪の中にありました

表示板サイズ：W500×H450
表示方法：スーパーカラー R＋ABX コート
本体素材：青森県産ヒバ材

三陸復興国立公園

震災メモリアルパーク中の浜

震災メモリアルパーク中の浜は、2011年3月11日14時46分に発生した東北地方太平洋沖地震により引き起こされた津波の被害を受けた中の浜キャンプ場を「自然の脅威や震災の記憶を後世に伝える場」として再整備された公園です。

津波によって破壊された炊事棟やトイレを震災遺構として残し、三陸復興国立公園内で震災遺構を活用した初の施設となります。炊事棟やトイレの他、斜面を駆け上がった津波に 17.3m の高さまで運ばれ木の上に引っ掛かったブイ（漁具）も震災遺構として保存され、それらの解説標識が設置されました。

解説標識には被災前・被災後の写真を表示し、入口標識と展示壁には津波により立ち枯れした樹木を、公園エントランスには破壊された女遊部海岸の防潮堤の一部をモニュメントとして使用しています。震災の記憶以外に、これまで三陸沿岸住民の方々が自然の脅威とどのように関わって来たかを学べる施設となっています。

公園エントランスに設置された記名標識と総合案内標識
記名標識左脇には破壊された防潮堤をモニュメントとして使用しています

記名標識
表示板サイズ：W950×H180（ロゴ）
W2150×H300（園名）
W1950×H180（波形）
表示方法：ステンレス切文字
強化ガラス（中間膜印刷）
本体素材：コンクリート

総合案内標識
表示板サイズ：W3400×H1200
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：コンクリート

公園の法面には、津波が遡上した高さがわかる標識が4カ所設置されました
表示板サイズ：W1000×H1000
表示方法：スーパーカラー R
本体素材：スチール（亜鉛メッキ処理）

被災したトイレの前では、被災前・被災後の写真を見ることが出来ます
表示板サイズ：W600×H600
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：岩手県産杉材

津波により立ち枯れした樹木を利用して制作した入口標識
側面には、使用した樹木の写真を表示しています

表示板サイズ：W500×H1800、W180×H1000
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：岩手県産杉材

丘に設置された記名標識は、同規模の津波が発生した場合に浸水することから、避難経路図が表示されています

表示板サイズ：W200×H300、W150×H250
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：岩手県産杉材

立ち枯れ木を使用した展示壁には、津波にまつわる色々な話が紹介されています

表示板サイズ：W700×H700、W500×H500
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：岩手県産杉材

避難誘導標識は、夜間の視認性が良いスーパー蓄光パネルを使用しました

表示板サイズ：W200×H300、W200×H250、W200×H100
表示方法：スーパー蓄光パネル
本体素材：岩手県産杉材

三陸復興国立公園

宮古姉ヶ崎キャンプ場

宮古姉ヶ崎キャンプ場は、東日本大震災により破壊された中の浜キャンプ場に代わり旧中の浜キャンプ場より徒歩 15 分の高台に整備されました。

入口標識、案内標識、サイト番号標識は、本体中央に緑のラインを配置したデザインで統一されており、そのラインの方向へ進むと次の標識、また次の標識という風に、緑のラインをたどることでキャンプ場内へ誘導するように考えられたデザインです。

また、本体の構造材は耐久性の高いステンレスを使用し、化粧材には周辺植生と同じ赤松を使用しており、地域産材の活用と周辺環境の調和に配慮しています。

総合案内標識

表示板サイズ：W1200×H900
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：ステンレス＋岩手県産赤松材

誘導標識

表示板サイズ：W700×H800
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：ステンレス＋岩手県産赤松材

記名標識

表示板サイズ：W300×H300
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：ステンレス＋岩手県産杉材

管理棟と総合案内標識

富士箱根伊豆国立公園

伊豆下田 弓ヶ浜

今から約 3 年前。最初にこの案内標識の企画があがったのはそのころだった。

老朽化した現況案内標識を更新するという仕事で現地の標識の調査を行い、図面、見積もりをした。

しかし残念ながら、予算がつかずに約２年が経ち・・・26 年度、再び仕切り直しての仕事となった。

表示板の内容は、下田保護官事務所の浜氏から綿密な指示をいただいた。

隣に立つ既存の弓ヶ浜の説明標識とは意味をたがえるため、この標識はあえて国立公園の説明をするものとした。デザインは基準に沿って、色味等落ち着いた雰囲気に。印刷は海沿いということで耐候性の高い弊社スーパーカラー GR を使用した。

太平洋に向かって立つこの標識はこれから観光シーズンを迎える弓ヶ浜で観光客の皆さんに富士箱根伊豆国立公園の歴史や国立公園の保護の仕組みを伝える役を担っていくだろう。

案内標識

表示板サイズ：W1500×H1000
表示方法：スーパーカラー GR
本体素材：国産桧

設置中のランチ 750 円

皇居外苑

和田倉休憩所

皇居外苑和田倉噴水公園にある和田倉休憩所の建築改修に伴い、休憩所内の展示とサインに携わらせていただきました。

皇居を訪れる観光客は外国人が非常に多く、かつ 2020 年の東京オリンピック開催を意識して、今回のサイン表記はそのほとんどを日、英、中、ハングルの４ヵ国語表記としました。言語数が増えるとその分表示スペースが必要になって表示面に入りきらなくなることもあり、ご担当の石鍋氏には文章を短く再構成いただくなど大変お手数をお掛けしました。

皇居を訪れる方は二重橋と皇居東御苑に行くことが多いため、この２つの施設の連携をとるという目的から、展示では「皇居外苑の楽しみ方」「和田倉噴水公園のご紹介」に加えて「皇居東御苑の自然」の紹介にも力を入れています。

皇居の森には動物、植物をあわせると約 6000 種（！）もの生物が国立科学博物館の調査で確認されており、東京のど真ん中という立地からは想像できない豊かな生物多様性が存在しています。そこで幅約 5mの展示のほとんどを東御苑で見られる生きもので構成しました。もちろん、これを見た人が東御苑へ足を運ぶことを目的としているので、東御苑のどこでどんな植物が見られるかが分かる植物位置図を表示して、季節ごとの切り替えをマグネットシートで対応しています。

また、展示ケースには皇室と和田倉噴水公園の関係を記した資料や江戸時代期の出土品などが置かれ、休憩所というよりは小さなビジターセンターのように楽しむことができる空間となっています。

和田倉休憩所外観　オープンテラスもあり都心の貴重な憩いの場

休憩所内に展示コーナーが新設された

サインは分かりやすさを重視してほとんどにピクトグラムを表記して、認識率の高いピクトグラムは言語を省いてシンプルなデザインにしています。また可変的な使用ができるように卓上型サインを多用しているのも特徴です。

アボック社は屋外サインがメインなのですが、今回建築サインに関わらせていただくことで、表示情報の多様さやサイン配置の重要さを改めて勉強させていただく良い機会となりました。

幅 5mもある皇居東御苑の紹介展示
右のタイトル板も季節ごとに差し替える仕様

表示板サイズ：W4920×H1215
表示方法：スーパーカラー R
本体素材：木製

植物位置図はマグネットシートで季節ごとに差し替える仕様

皇居外苑の見どころの展示は４ヶ国語で表示している
（地図内は２ヶ国語）

表示板サイズ：W2920×H1215
表示方法：スーパーカラー R
本体素材：木製

和田倉噴水公園建設には当時多くの寄付が寄せられた
その銘板は気品ある真鍮エッチング板で製作

表示板サイズ：W1200×H1270
表示方法：真鍮エッチング
本体素材：木製

展示ケースには、資料や出土品

建築の意匠にあわせた解説板

ピクトグラムのみの表示

資料コーナーの卓上サイン

マグネット差替えの生きもの紹介

入口記名サイン

スロープ側の記名サイン

Ｌ型形状で進行方向を示唆

休憩所入口

閉館後にかけられる規制サイン

貴賓室名板は真鍮エッチング板

関係者に対しての注意サイン

中部山岳国立公園

上高地

上高地の自然解説標識を 11 基分提案することになり、担当者としては非常にやりがいと責任を感じながらも、楽しく取り組ませていただきました。何といっても、年間 200万人が訪れるという日本を代表する景勝地に立てる標識ということで、見やすさや英語の訳文の内容はもちろん、写真やイラストの使い方にまで非常にこだわったため版下が完成するまでにかなり時間がかかりました。一時期は、発注者様のご要望に対して仲介の業者さんを通してのコミュニケーションがスムーズにいかず、松本自然環境事務所までデザイナーと押しかけて直接打合せをさせていただいたたこともありました。紆余曲折はありましたが、結果として非常に良いものがご提案できたと思います。

上高地ではストックで表示板を突いて、現在地等の確認をするケースが多いとのことで、通常標識で求められる耐久性・耐候性等のほかに、耐衝撃性も重要な性能のひとつとなります。そこで今回は、インクジェット印刷 +AB コートという仕様でご提案いたしました。誘導標識のピクトについてもベースの木材を彫りこんだ部分に、コーティングをした表示板を埋め込む仕様といたしました。

表示内容はもちろん、標識本体、表示板に関しても高い性能が求められる上高地という設置環境は、我々標識メーカーにとっても生きた実験場として貴重な場所だと思います。

誘導標識

表示板サイズ：W640×H180
表示方法：彫刻文字
スーパーカラー R+AB コート
本体素材：杉材

解説標識

表示板サイズ：W1000×H500
表示方法：スーパーカラー R+AB コート
本体素材：杉材

解説標識

表示板サイズ：W1000×H500
表示方法：スーパーカラー R+AB コート
本体素材：杉材

吉野熊野国立公園熊野地域

南紀熊野ジオパーク

ジオパークとは、その地域のなりたちを知るだけでなく、歴史・文化・動植物・食などを通じて、大地と人の暮らしの関わりを実感して楽しむところです。

ジオパークは自然遺産や文化遺産を保護しつつ、それらを教育や科学の普及、地域振興策などに活用します。保護と活用の両面を重視する点が、主に保護を目的とする世界遺産とは異なる点です。

今回、ジオサイト（ジオパークの見どころとなる場所）解説標識を設置した「南紀熊野ジオパーク」は、独特の景観、温暖湿潤は気候がもたらす多種多様な動植物、そしてそこから生まれた熊野信仰や筏流しなど、数多くの優れた自然や文化を体感できるエリアです。

標識を製作するにあたり、南紀ジオパーク推進協議会様やジオパークガイドの方にも協力していただき 11 箇所のジオサイトに標識を設置しました。

ジオパークはものだけでなく、そこで行われている人々の活動も評価の対象として重視されるため、地元住民の関心度も非常に高く、「AGARA 紀伊民報」という和歌山県のニュースと情報サイトにも標識設置のニュースが掲載されました。

現在、和歌山県内に 102 箇所のジオサイトが選定されていますので、今後も順次設置していく予定となっております。

北山峡

宇久井半島

海金剛

樫野埼

橋杭岩

燈明崎

解説標識

表示板サイズ：W900×H600
表示方法：スーパーカラー R+AB コート
本体素材：紀州産杉材